

# 子ども虐待防止 オレンジリボン運動

## 令和4年度学生によるオレンジリボン運動実施報告書報告

実施主体 名古屋学芸大学 別科助産学専攻学生 21名

実施内容 子育て支援施設を訪問し、作成したリーフレットを配布

### ① 事前に取り組んだ内容

1. 地域母子保健学の講義で児童虐待の実態や支援体制について学んだ。
2. 母子と家族の心理の講義で児童虐待を受けた子供や家族への影響について学んだ。
3. 4グループによる乳児用・幼児用リーフレットの作成を行った。

リーフレットは4グループ5人から6人で作成しており、乳児期（1部）と幼児期（1部）の子どもを持つ母親に宛てたものとなっている。子どもの発達やお母さんの心配事にフォーカスしながら、赤ちゃんの揺さぶりや、お母さんの心と体を気遣いながら不安や悩みを抱えないこと、相談できる施設の紹介などが盛り込まれている。子育てしてよかったと思えることが大切、子育てしていて感じる幸せな気持ちを大切にできることなど助産学生としてのメッセージも込められている。

2022年11月～12月にかけて子育て支援施設を訪問する前に作成したリーフレットを手にしてポスターを囲んで全員で集合写真を撮った。



全員で集合（学生21名 教員6名）

## ② 実施期間に取り組んだ具体的内容

11月2か所、12月2か所を各グループの代表者が数人子育て支援施設を訪問し、来所している母親にリーフレットを配り一人一人に説明をしながら、母親の話を聞いた。

<子育て支援施設でリーフレットを配布している様子>



\* ところと



\* クレヨン広場



\* クレヨンパーク





\*子どもケア支援センター

### ③ オレンジリボン運動を終えて（グループ代表 学生の声）

・地域で生活する親子の姿や、母親同士のコミュニケーションを見ることができ、自分が病院で関わった親子のその後の姿をイメージすることにつながった。今回は、乳児期：泣きについて、幼児期：イヤイヤ期についてのご案内をしたが、実際に対象のお子さんを持つ母親からの共感も得られたためよかったと思った。

・ミルクの飲みが悪い、イヤイヤ期が大変など、母親が事業所スタッフに相談する姿も見られ、こういった事業所の存在は母親に1人で抱え込ませること（＝育児の孤立化）の防止につながっているのだと実感することができた。

・実際にお母さんたちとお話をしてみて、育児をしているお母さんたちが気軽に来れる場所があることが、お母さんたちにとっては息抜きになったり、ママ友との交流にもなるので重要だということがわかった。今回伺ったような場所があることで、児童虐待の減少にもつながっていくのかなと思った。

・パンフレットを活用することで対策やサポートの利用などが手元で見返すことができるツールになったと考える。産後の母児に関わり話を聞いたり児と関わる機会が限られるため、参加できて非常に勉強になった。特に虐待防止の面で参加しているためイライラしてしまうことや困っていることを話される方もいれば気丈に振る舞う様子もあったように感じた。困っている内容を傾聴し必要時はサポートを提供するなどオレンジリボンに沿った活動であったと考える。

・オレンジリボン活動を通して、実際に母親の声を聞いて困っていることや、大変と感じていることを聞くことができてよかった。なかなか、母親が助けを求める場所など、周知されていなかったりすることも多く、母親の孤独につながると考えるため、そういった場所の周知も行っていくことが課題であると感じた。